第5回全国胡蝶蘭部門千葉研修会

（1）研修会の概要

平成21年11月11日（水）、12日（木）の2日間、日本花き生産協会洋らん部会胡蝶蘭部門と千葉研修会実行委員会が主催となり、厳しい生産と販売環境を踏まえ、「どうする！日本の胡蝶蘭」をテーマに千葉県成田市内で研修会を開催しました。全国から胡蝶蘭生産者や関係業者、台湾からも胡蝶蘭生産業者や試験研究者など、総勢200名余りの参加がありました。

胡蝶蘭は、贈答需要には欠くことのできない高級花きですが、経済不況の影響を大きく受け、消費が大きく落ち込んでいる品目の一つです。胡蝶蘭に限らず、消費の底上げが期待される花き産業にあって、どう対応すべきかをパネルディスカッションや意見交換会を通して、解決の糸口を見いだすことが出来るよう企画しました。

（2）胡蝶蘭の消費拡大は･･･

鉢物の胡蝶蘭は、ギフトアイテムとして流通していますが、その多くは感謝やお祝いなどを目的に贈られる商品であり、ホームユース用として、購入されることはこれまでほとんどありませんでした。贈る側は、目安とする金額から、それに見合ったギフトアイテムとして胡蝶蘭を選ぶ機会が多くありました。

その一方で、贈られる側は、複数から贈られることで置き場所や管理方法の問題、お返し金額の判断、観賞後の株の処分などが問題になることも多く、これらの課題解決が必要です。

そして、消費拡大には、ギフトアイテムだけでなく、個人消費を伸ばすことが重要であり、オリジナリティや花持ち、買いやすい価格帯など、選ばれる商品づくりやそれを生産する技術力の向上、営業力や消費宣伝などが重要であることが討議されました。

（3）台湾とのリレー栽培

これまでに胡蝶蘭部門では、台湾関係者と4回の意見交換が行ってきました。今回、日本側からは胡蝶蘭生産と研究者7名、台湾側からは生産者や研究者4名、国際商業ラン栽培者協会（ICOGO）のアンディー松井会長をアドバイザーに意見交換会を行いました。

台湾とのリレー栽培取引の増加に伴い、病害虫や花老け、花芽抑制技術の確立などが課題となっていることから、日本と台湾で行われている研究成果の報告や意見交換が行われました。

また、昨年8月に台湾を襲った台風被害についての報告があり、台湾に苗を依存する国内生産は多少なり影響がでてくることが予想されました。

（4）現地視察

翌日は、3 コースに分かれ、有限会社椎名洋ラン園、さくら洋らん有限会社、有限会社小見川洋らん園の現地視察を行い、園地では、活発な情報交換が図れました。

今回の研修会では、新商品の開発やそのための技術開発と施設投資、市場開拓（一般消費の拡大）の必要性が認識され、業界が一丸となって取り組むことで、日本の胡蝶蘭産業が活性化することが期待される研修会となりました。

（5）決算報告の概要

収入は、本部会から助成金 262,500 円、東日本支部より 50,000 円、千葉県園芸協会50,000円、千葉県花き園芸組合連合会50,000円を含め、協賛金、参加費等の合計が5,982,048 円になりました。支出のあらましは、研修会費 1,399,589 円、懇親会費 1,295,000 円、宿泊費 1,107,000 円、視察費、606,850 円、会議費、研修資料費、事務費等 1,365,609 円、予備費 208,000 円の合計 5,982,048 円でした。

以上、第5回全国胡蝶蘭部門千葉研修会実行委員会より報告。